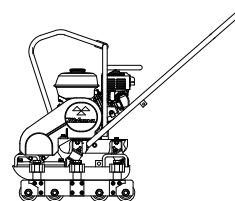




ブロックプレート

MVB-85H
MVB-150H



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

401-02303



目 次

1 はじめに	1
2 機械概要	1
3 警告サイン	2
4 安全のための注意事項	2
4.1 一般的な注意事項	2
4.2 給油中の注意事項	2
4.3 使用場所、換気に関する注意事項	2
4.4 作業前の注意事項	3
4.5 作業中の注意事項	3
4.6 リフティング時の注意事項	3
4.7 運搬・保管に関する注意事項	3
4.8 整備上の注意事項	4
4.9 ラベルの絵文字説明	4
4.10 ラベルの取付位置図	5
5 外観図	6
5.1 外観寸法図	6
5.2 各部装置位置および名称	7
6 仕様	8
6.1 本体	8
6.2 エンジン	8
7 運転前点検	9
8 運転	10
8.1 始動	10
8.2 運転	11
9 停止	12
10 手入れと保存	12
11 定期点検と調整	13
11.1 各部点検スケジュール表	13
11.2 点検・保存作業内容	13
12 トラブルシューティング	14
12.1 本体	14
12.2 エンジン	14

1. はじめに

- この取扱説明書は、ブロックプレートの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- お読みになった後も必ずお手元に保管し、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途エンジン取扱説明書を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機能概要

用 途

歩道、公園、広場等の路面に敷き詰めたインターロッキングブロックの表面の凹凸を機体の重量と振動で平に仕上げるためのプレートコンパクターです。4本の硬質ゴムロールが転がりながらインターロッキングブロックに振動を伝え表面の均しを行なうので、インターロッキングブロックの表面を傷つけ難く機体の操作も楽に行なえます。インターロッキングブロックは一個のブロックに2本のロールが乗るサイズが適当です。

誤用途・ご使用の警告

敷き詰めたインターロッキングブロックの表面を平に均す用途以外の作業に使用してはいけません。急傾斜地での作業は万一手を離れた場合、機体暴走の危険がありますので使用してはいけません。敷き均しを早める為、機体の上に重しを載せて作業をしてはいけません。機体を破損させる恐れがあると共に、機体のバランスが崩れ重しが落下飛散し思わぬ危険の恐れがあります。人を乗せて作業をしてはいけません。身体が大きな振動を受けると共にバランスを崩しロールに挟まれたり、踏まれたりして思わぬ怪我を受ける危険があります。一個のインターロッキングブロックが大き過ぎたり重過ぎる場合又は、十分に締固まった路面での運転は機体の振動が大きくなり、機体の損傷を早めると共にハンドル手許の振動も大きくなり長時間の作業は振動病の危険があります。

構 造

エンジンベースの上面は、遠心式クラッチが出力軸に付いたエンジン、ハンドル、ベルトカバー及びガードフックを固定して、機体上部が構成されています。機体下部は、鋳物製フレームの前部上側に起振体が、下部に4本のゴムロールが回転自在に取付けられています。機体上部と機体下部は4個の防振ゴムで連結されており、機体上部の遠心式クラッチと機体下部の起振体のプーリー間は、Vベルトが動力を伝達しています。起振体は、Vプーリーが取付けられた振子軸に、偏芯振子がベアリングを介して回転自在に取付けられています。

動力伝達

原動機は4サイクル単気筒空冷ガソリンエンジンです。エンジンの出力軸には外周にVプーリーがある遠心式クラッチが取付けられています。エンジンのスロットルレバーでエンジン回転数を上げることでクラッチが繋がりVベルトを介して機体下部の起振体のVプーリーを回転させると共に、エンジンの回転数を所定の回転数に変換し偏芯振子を回転させ振動を発生させます。起振体から発生した振動はゴムロールに伝わり、インターロッキングブロックを振動させます。

3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの  マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

	人体に対する危険がある場合
 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
注意	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

警告

- こんな時は作業をしない。
 - 過労や病気などで体調が悪いとき。
 - 医薬品や薬物を服用したとき。
 - 飲酒をしたとき。

注意

- 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行ってください。
- エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業を安全に行うために、防護具(ヘルメット、ゴーグル、安全靴、耳栓等)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。
- 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。
- 幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。
- 整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 三笠純正部品を使用しない場合や、改造及び修正を加える事で発生した如何なる事故・故障に関して、当社は一切責任を負いません。



4.2 給油中の注意事項

危険

- 燃料を給油する時
 - 必ず換気の良い場所で行ってください。
 - 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油してください。
 - 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれたら良く拭き取ってください。
 - 給油中は絶対に火気を近付けないでください。(特にタバコを吸いながらの給油は厳禁)
- 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守ってください。
- 給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んでください。



4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険

- 室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気のある傍での運転はしないでください。



4.4 作業前の注意事項

⚠ 注意

- 運転前点検を必ず行ってください。
- 各部分の締付具合を点検してください。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意

- 長時間の使用は、はくろう病等に注意が必要です。本機は振動機械の為、長時間の運転は人体に悪影響を及ぼします。十分な間隔を空け使用してください。
- 本機を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- 傾斜地での使用には充分ご注意ください。また、一時的に停止する場合でも、傾斜地に放置しないで平坦な場所を選び、ゴムロールに輪留めをしてください。
- 常に足場に注意し、バランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- エンジン本体、マフラー及びマフラーカバー等高温になる箇所は、運転直後等の熱い時は触れないように注意してください。
- 運転中や移動時、停止時等に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに作業を中止してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させてください。また本機を移動する場合もエンジンを停止させて、燃料コックも閉じてください。

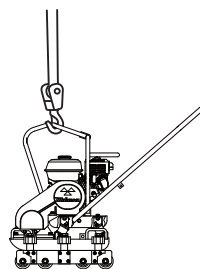


4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

⚠ 危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。
- 強度の充分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。



4.7 運搬・保管に関する注意事項

⚠ 警告

- 運搬時はエンジンを停止させてください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 運搬や保管時には必ずゴムロールに輪留めをしてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。

4.8 整備上の注意事項

⚠ 注意

- 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特に、ゴムロール関連部品やリフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意してください。
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行ってください。



4.9 ラベルの絵文字説明



騒音による聴覚障害に注意

本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフを着用してください。



回転部巻き込み注意

運転中は、Vベルトやクラッチ等回転部に手、体及び衣服等が触れないよう近付かないでください。

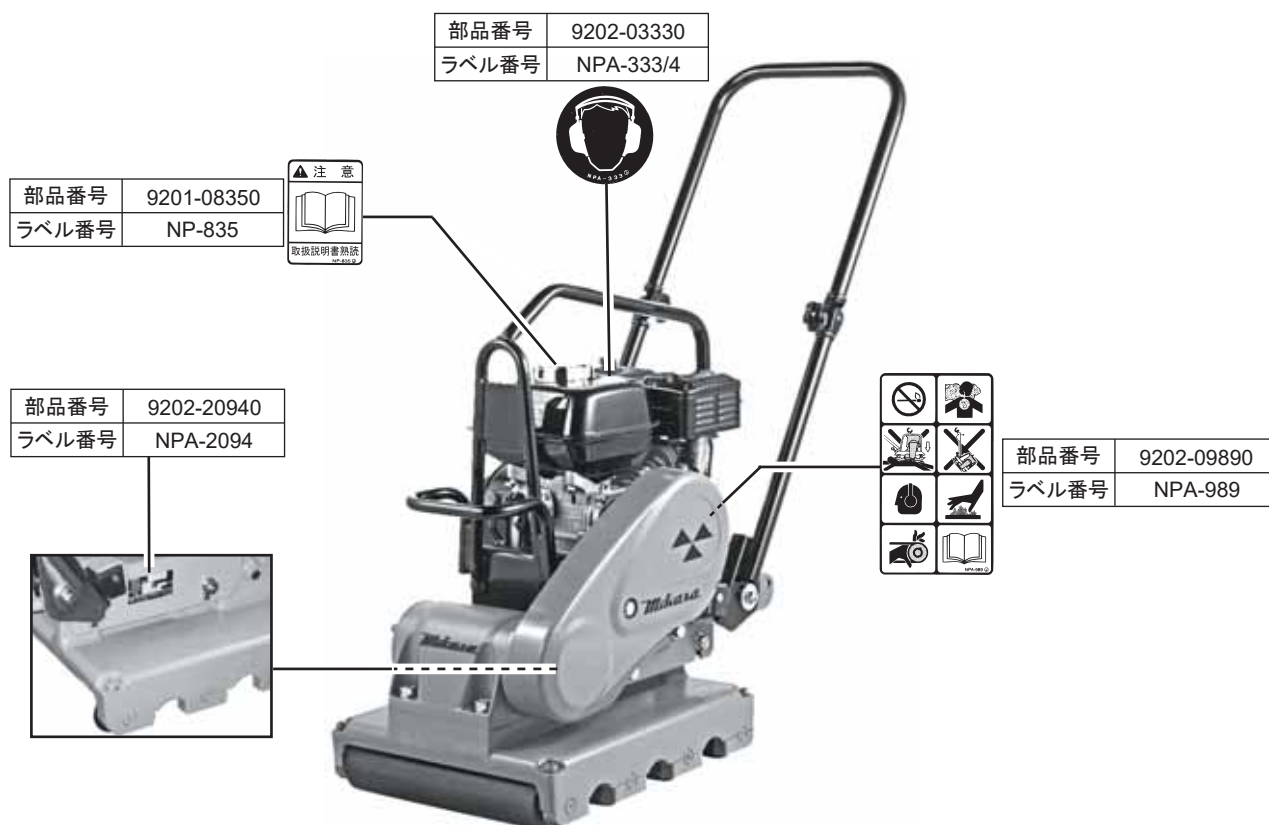


取扱説明書熟読

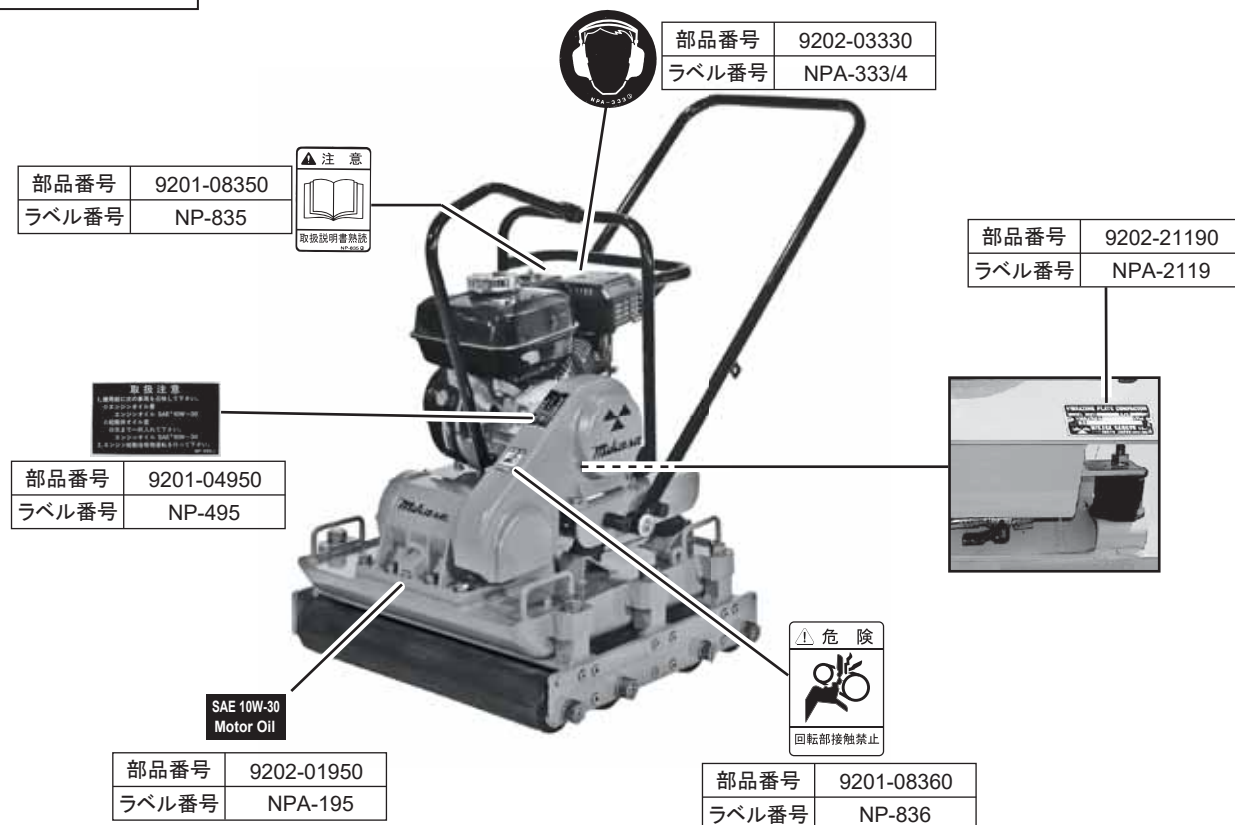
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解してください。

4.10 ラベルの取付位置図

MVB-85H



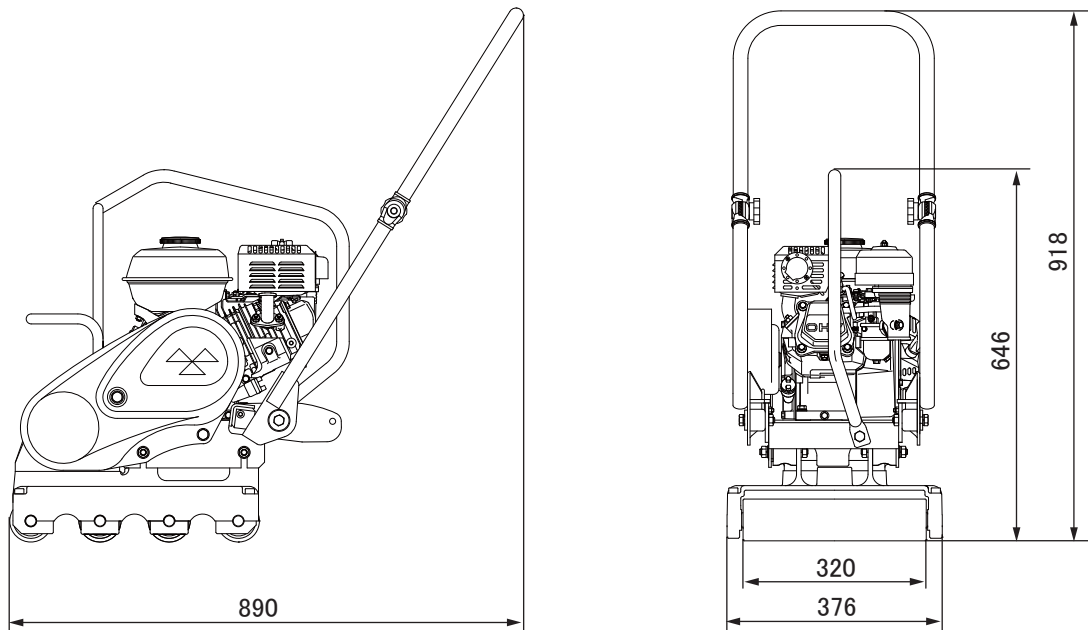
MVB-150H



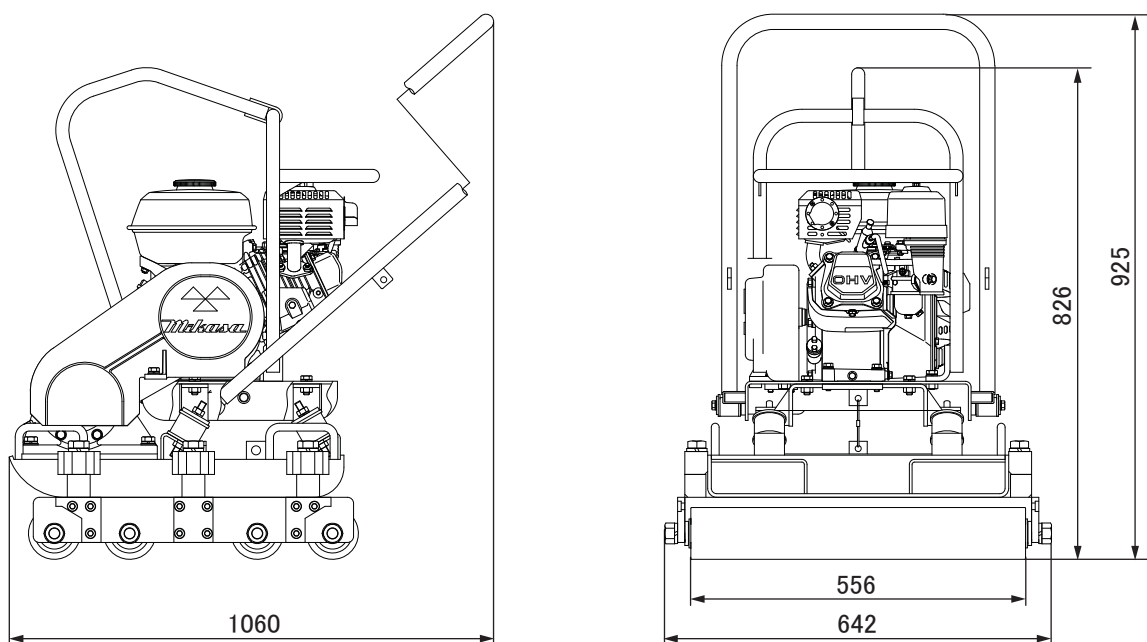
5. 外観図

5.1 外観寸法図 (単位:mm)

MVB-85H



MVB-150H



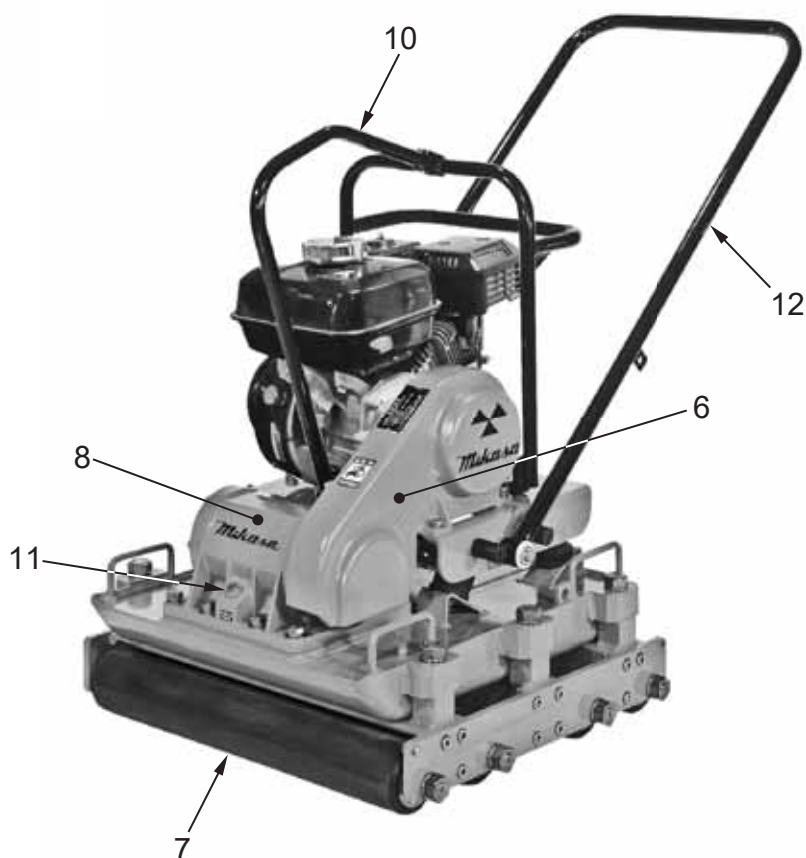
5.2 各部装置位置および名称

MVB-85H

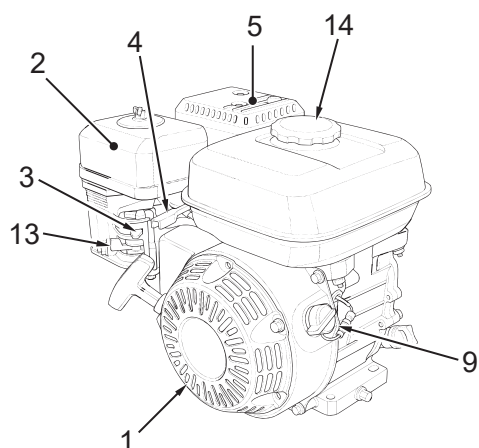
- | | |
|--------------|------------------|
| 1. リコイルスターター | 8. 起振体 |
| 2. エアクリーナー | 9. ストップスイッチ |
| 3. チョークレバー | 10. 吊り上げフック |
| 4. スロットルレバー | 11. 起振体オイルドレンプラグ |
| 5. マフラー | 12. ハンドル |
| 6. ベルトカバー | 13. 燃料コック |
| 7. ゴムロール | 14. 燃料タンクキャップ |



MVB-150H



GX120型エンジン
GX160型エンジン



6. 仕様

6.1 本体

型 式	MVB-85H	MVB-150H
搭 載 エ ン ジ ン	ホンダ GX120	ホンダ GX160
機 体 寸 法		
全 長	890mm	1060mm
全 幅	376mm	642mm
全 高 (ハンドル)	918mm	925mm
ゴムロール寸法		
ロ ー ル 径	73mm	86mm
ロ ー ル 長 さ	320mm	556mm
ロ ー ル 数	4 本	4 本
性 能		
振 動 数	93Hz(5,600vpm)	97Hz(5,800vpm)
遠 心 力	10.1kN(1,030kgf)	15.2kN(1,560kgf)
起振体オイル量	140cc	140cc
起振体オイル	SAE10W-30	SAE10W-30
機 械 質 量	90kg	159kg
使 用 V ベ ル ト	A-31 ブルー	A-32

6.2 エンジン

名 称	ホンダ GX120	ホンダ GX160
型 式	GX120T2SM11	GX160T2SM11
機 関 形 式	空冷式 4 サイクルガソリンエンジン	
容 積	118cc	163cc
最 大 出 力	2.6kW/3,600m ⁻¹	3.6kW/3,600m ⁻¹
	3.5PS/3,600rpm	4.9PS/3,600rpm
冷 却 方 式	強制空冷式	
使 用 潤 滑 油	自動車用エンジンオイル (SE 級以上)	
	SAE#20 ~ #30(寒冷時 10W-30)	
潤 滑 油 量	0.56L(560cc)	0.58L(580cc)
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン	
燃 料 タ ン ク 容 量	2.0L	3.1L
使 用 点 火 栓	NGK BPR6ES	

※ 単位は、計量法の改正に従い S I 単位を使用しています。

() 内に、従来単位での値を併記しています。

7. 運転前点検

警告

- エンジンを停止させた状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。
- 本機の温度が下がってから点検作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、大やけどをする危険性があります。



作業前各部点検表

点検箇所	点検項目	点検箇所	点検項目
外観	傷、ゆがみ、汚れ	防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損
エアークリーナー	汚れ、傷、変形	エンジンオイル	汚れ、油量
ガードフック	傷、変形、亀裂、破損	ゴムロール	摩耗、変形、破損
ボルト、ナット類	ゆるみ、脱落	燃料タンク	漏れ、量、汚れ
ハンドル	傷、変形、亀裂、破損	燃料系統	漏れ、傷、ゆるみ

エンジン各部の点検詳細は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

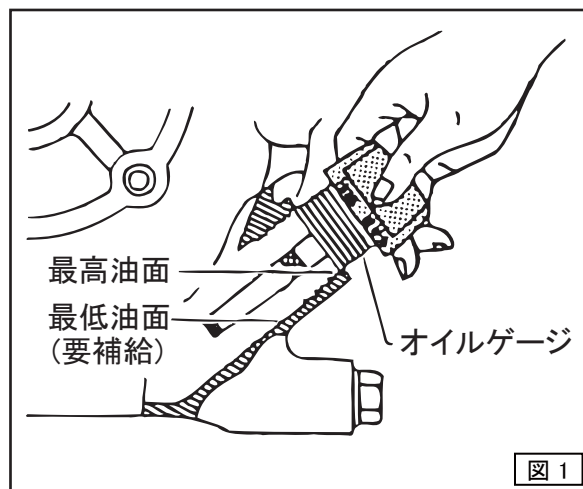
危険

エンジンが停止した状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。本機を水平にし、機体が動かない事を確認してから点検してください。

- 作業前の点検箇所の詳細は14ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照してください。

1. 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入れをしてください。
特に転圧盤の底面に付着した泥、エンジンの冷却風吸入口、気化器及びエアクリーナーの周辺は綺麗にしてください。
2. 各部の締付ネジが緩んでいないか確認してください。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故や故障の原因となります。
3. ガードフック、ベルトカバー、防振ゴムを点検し、破損が無いか確認してください。
4. Vベルトの緩みを点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。
Vベルトが緩んでいますとベルトがスリップしてエンジンの動力伝達が悪くなると共にベルトが発熱し、Vベルトの寿命も短くなります。また発生する転圧力が小さいのでエンジンの回転を上げると不整振動が発生し故障の原因となります。
5. エンジンを水平にしてオイルを点検し、不足している場合は補充してください。(図1)
エンジンオイルは次の表に従い使用してください。

季節	温度	使用オイル (SE 級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25 ～ 10℃	SAE#30、#20
冬	10 ～ 0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

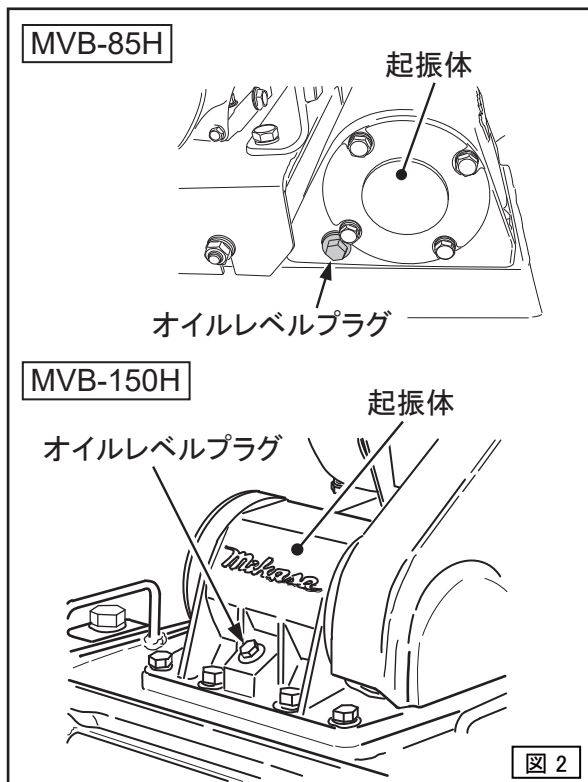


6. 本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグは起振体ケース正面側にあります。(図2)

- 起振体オイルはエンジンオイル#10W-30を使用してください。

- 起振体オイル油量： 140cc

起振体オイルは一ヶ月又は200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。



7. 燃料タンクへ燃料を入れてください。燃料は自動車用無鉛ガソリンです。燃料を入れる場合は必ずフィルターを通してろ過しながら入れてください。

⚠ 危険

- 燃料の補給はかならずエンジンを停止して行ってください。火災の危険があります。
- 燃料の補給中は周囲の火気に注意してください。やけどを含む重大な危険の恐れがあります。
- 燃料をこぼさずに補給してください。もし、これた場合は良く拭き取り乾燥させてください。

注 意

ゴムロール及び防振ゴムには、オイルやガソリンを付着させないでください。ゴムが膨潤し劣化します。付着した場合は、直ぐに清掃してください。

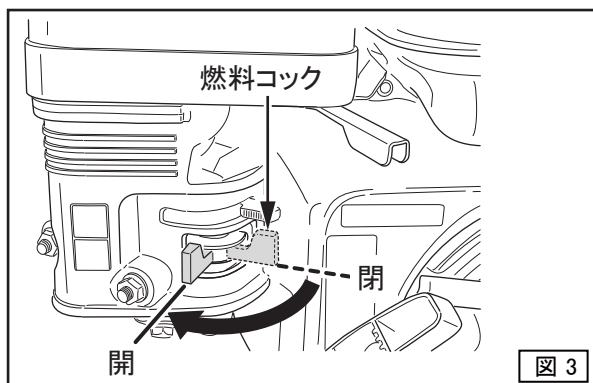
8. 運転

8.1 始動

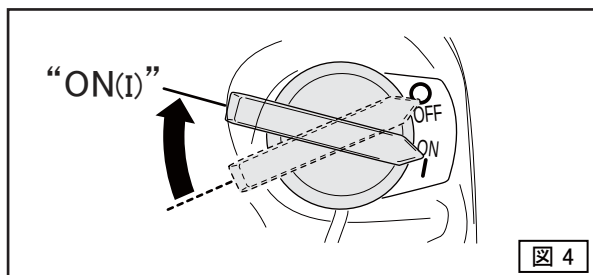
⚠ 危険

エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。換気が悪い所や屋内では使用しないでください。

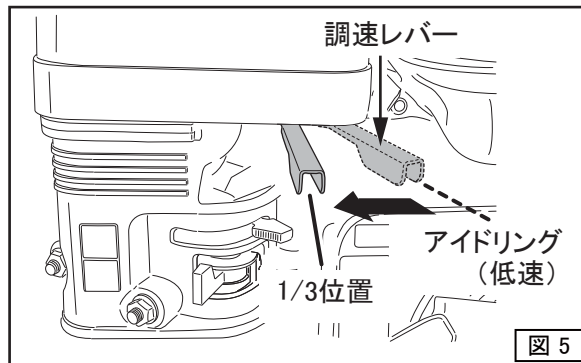
1. 燃料コックのレバーを開いて燃料を通します。(図3)



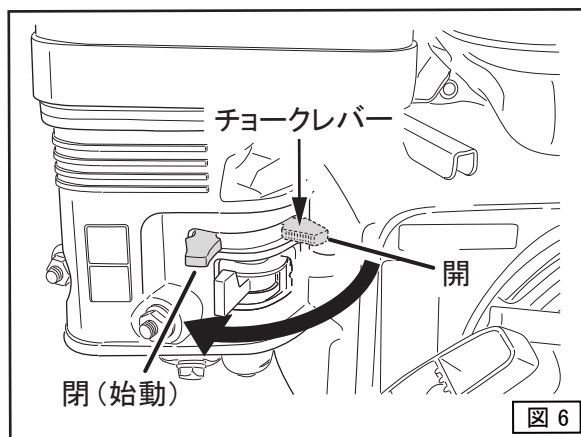
2. ストップスイッチを“ON(I)”の位置にします。(図4)



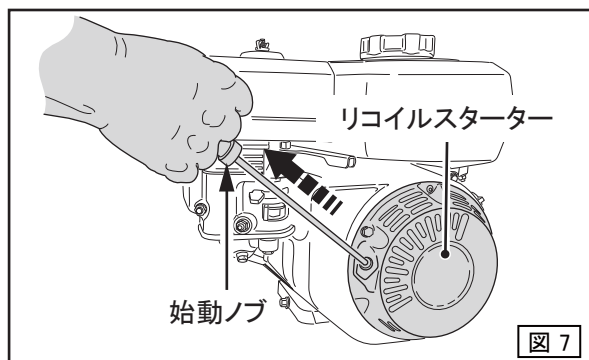
3. 调速レバーを全開側へ約1/3開いた位置にします。(図5)



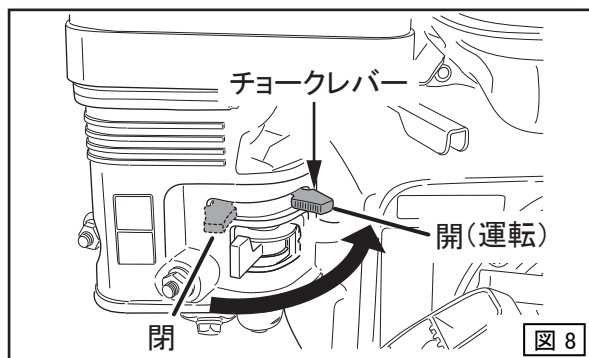
4. チョークレバーを閉じ(始動)ます。冬期やエンジンが冷えている時は全閉にし、暖かい時やエンジン停止直後の再始動時には半開か全開にします。(図6)



5. リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと重くなるところ(圧縮点)があります。そこから勢い良く引張ってください。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから注意してください。(図7)



6. エンジンが始動したらすぐに调速レバーを戻し、エンジンの回転音を確認しながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。(図8)
始動後は、必ず2~5分程度低速で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行してください。

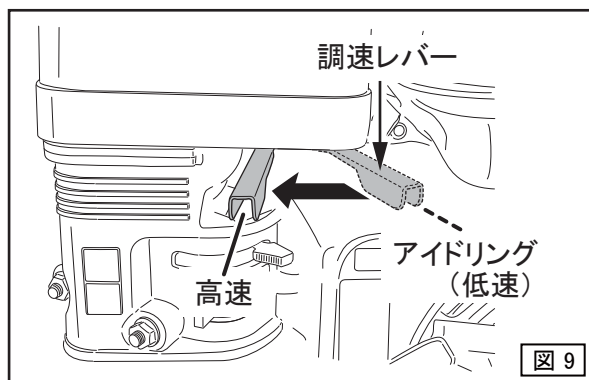


注意

调速レバーを半開のままにすると、遠心クラッチがスリップした状態となり、遠心クラッチの故障の原因になるとともに、本機が異常振動を起こし危険です。エンジンが始動したらすぐに调速レバーを低速に位置に戻してください。

8.2 運転

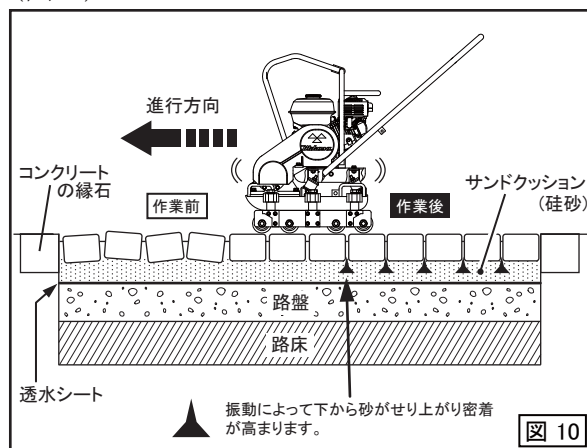
1. 调速レバーを開く(高速)と本機は振動と前進を始めます。调速レバーをゆっくり開くとクラッチがスリップした状態のままになりますので、调速レバーの開閉は一気に行ってください。(図9)



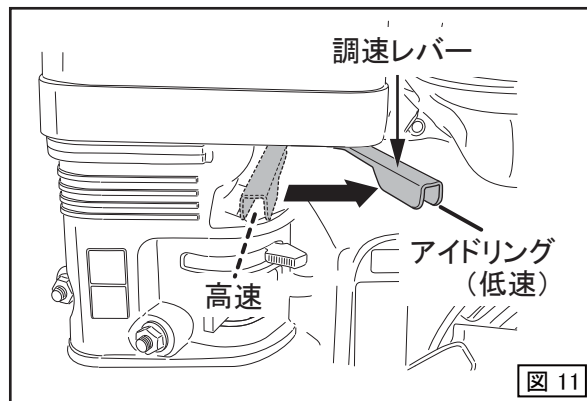
注意

粘土を含む土壌で作業する場合は、転圧盤が地面から離れにくく、走行が遅くなります。このような場合は転圧盤の底面に粘土が付着していないかを点検してください。なお、粘土質や高含水比の土壌では本機の転圧力が有効に働かないため、ランマー等の転圧機を使用するか、適正な含水比になるまで乾燥させてください。

2. 並べたインターロッキングブロックが平坦になるように何度か運転を繰り返します。振動によって砂(サンドクッション)がせり上がって、ブロックの隙間を埋めて密着・固定します。(図10)



3. 運転を止める時は、调速レバーを一気にアイドリング(低速)の位置へ戻してください。(図11)



危険

傾斜地での作業は大変危険です。安全に十分注意してください。

危険

固い路面や作業済みの路面、また大き過ぎたり重過ぎるブロックを作業した場合は、反動で振動が大きくなり機体の損傷を早めたり、手元の振動が大きくなり過ぎて危険な場合があります。

9. 停止

1. エンジンを停止させる時は、ストップスイッチを“OFF(O)”側に回してください。
運転中の場合は、调速レバーをアイドリング(低速)に戻して3～5分程エンジンを回して温度が下がってから停止させてください。(図12)

⚠ 危険

エンジンを高温の状態で停止させると、シリンダー内部の磨耗が早まり、エンジンの故障の原因となります。

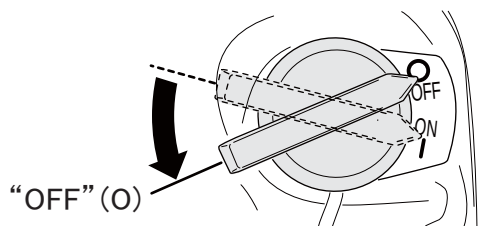


図 12

3. 燃料コックのレバーを閉じてください。(図13)

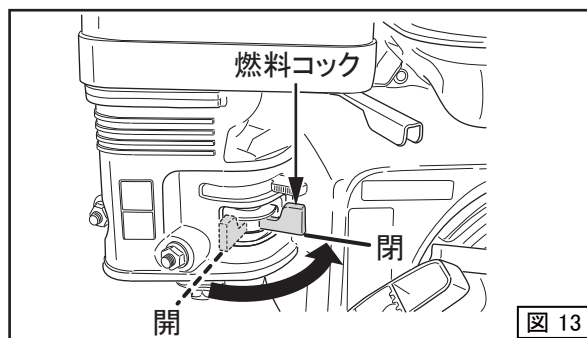


図 13

⚠ 警告

- 機体から離れる場合は、エンジンを停止させゴムロールに輪留めをかけて機体が動かないことを確認してください。
- 停止後の機体は、傾斜地を避けて平坦な場所に置いてください。

10. 手入れと保存

⚠ 警告

- ブロックプレートの手入れは必ずエンジンを停止させてから行なってください。
- 回転部に巻き込まれますと、重大な障害を負う危険性がありますので注意してください。
- ブロックプレートの手入れ及び保存をする場合、機体を水平な場所に置き、必要に応じて輪留め等を使用し機体が動かない事を確認してから行ってください。
- 機体の温度が下がってから作業を行ってください。特に、エンジン停止直後のマフラーは高温になり火傷をする危険性があります。

各個所の泥、ホコリ、油等はきれいに掃除してください。エアークリーナーを点検して特によごれがひどい場合にはこれも掃除してください。また油漏れなどの有無にかかわらず各締付部は増締めをしてください。
ロールについた泥や汚れはきれいに取除いてください。

注 意

ゴムロールの硬質ゴム部にガソリンやオイルおよびシンナー等の溶剤を付けないでください。ゴム部が膨潤し劣化します。汚れがひどい場合は、湿った布またはゴムなどにも使用できるパーツクリーナ等で良く拭き取ってください。

長期間保存する場合

1. 燃料タンク、燃料パイプ、気化器(キャブレーター)の燃料をきれいに抜き取る。
2. 点火プラグをはずしてエンジンオイルを数滴シリンダー内に流し込み、数回手回しして内部に充分ゆきわたらせる。
3. ゴム部を除く外側は油をひたした布で清掃し、直射日光のあたらない湿気やホコリが無く、高温にならないところにカバーをかけて格納する。
4. ゴムロールに輪留めをし、機械が完全に動かないように固定してください。

11. 定期点検と調整

11.1 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	防振ゴム	亀裂、磨耗、破損	
	起振体オイル	漏れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ガードフック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間	エンジンオイル	初回のみ20時間で交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
200 時間毎	V ベルト	傷、張り	
	クラッチ	汚れ、傷、磨耗	
	起振体オイル	交換	エンジンオイル
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

注) 上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますので御注意ください。

11.2 点検・保存作業内容

● 毎日の手入れ

- 各個所の泥、ホコリ、油等はきれいに掃除してください。エアークリーナーを点検して特によごれがひどい場合には合わせて掃除してください。また油漏れなどの有無にかかわらず各締付部は増締めをしてください。ロールについた泥や汚れはきれいに取除いてください。
- ガソリンやオイルが防振ゴムやゴムロールに付着した場合は、直ぐに清掃してください。付着したままに放置されるとゴム部が膨潤し、変形・劣化します。

● 一週間毎の手入れ（50時間毎）

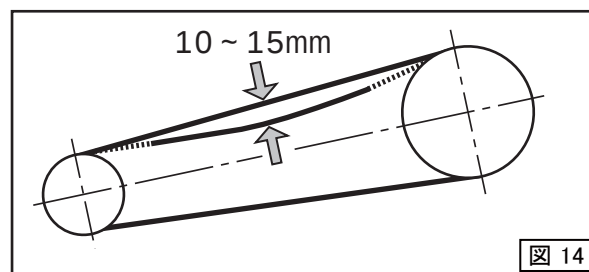
- エアークリーナーより、エレメントを抜き取り、洗油（白灯油）で洗浄後、ガソリン3:エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、外側の一次エレメント（スポンジ）は固く絞り、内側の二次エレメントは、よく振り切ってから取付けます。
- 点火プラグを取りはずし掃除して火花間隔を0.5～0.6mmに調整します。
- エンジンが暖まっているうちにクランクケース内の古いオイルを完全に抜き取り新しい良質のオイルと交換してください。エンジン停止直後は、オイル・機体が熱くなっています。火傷をしない温度になっている事を確認した後に交換作業を行ってください。

【注 意】

エンジンが新しいときは最初の1回目は20時間で交換してください。

● 200時間毎の手入れ

1. 起振体の潤滑油
起振体の潤滑油を排出し、新しい潤滑油と入替えてください。（10ページ、図2）
2. Vベルト
ベルトカバーを外し、Vベルトの張り具合を点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。（図14）



● 2年毎の手入れ

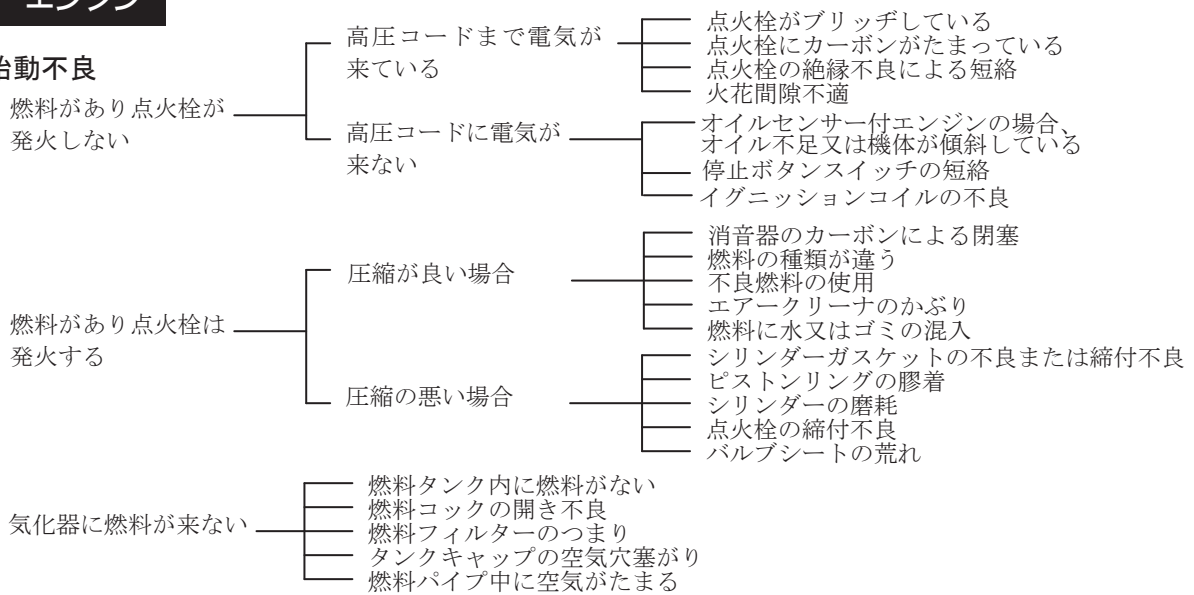
- 燃料パイプは、2年で交換してください。また、点検時劣化などで漏れや破損のあるものは2年を待たずに交換してください。

部品やパーツリストおよび修理に関しては販売店もしくは三笠部品サービスセンターに御問い合わせください。

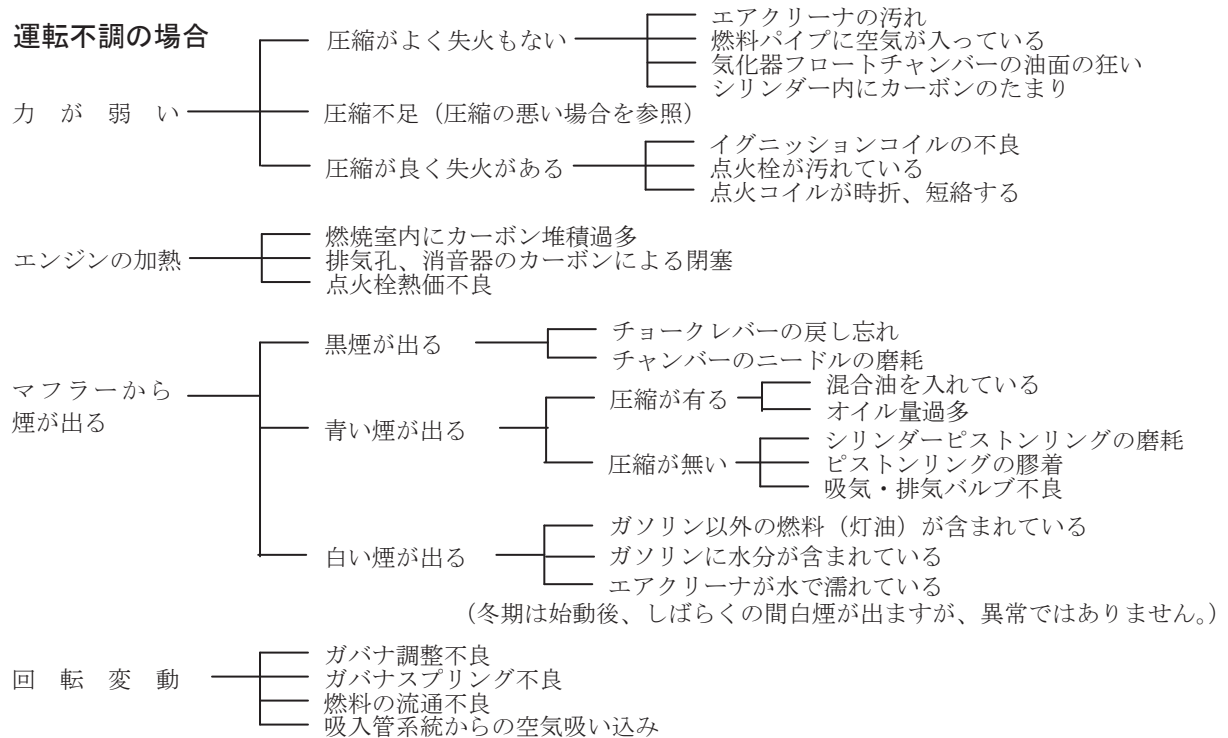
12. トラブルシューティング

12.1 エンジン

(1) 始動不良



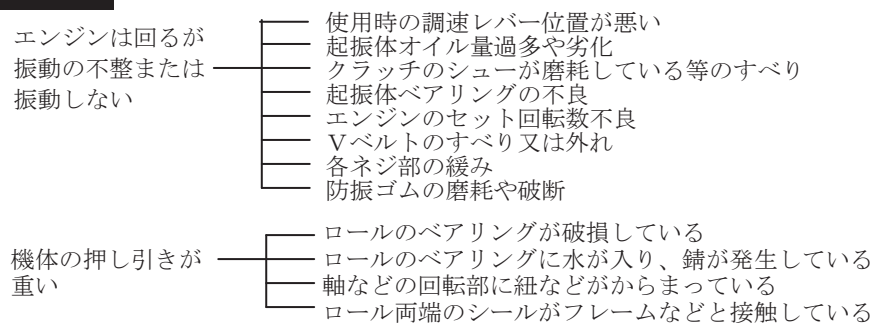
(2) 運転不調の場合



(3) リコイルスターターの動きが悪い

- 回転部のゴミ詰まり
- スパイラルスプリングのへたり

12.2 本体



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN JAPAN